

社会科（地理歴史）

報告者：奥田 雅大

1 課題

本校における社会科の課題として、読解力と学習意欲の向上、学習習慣の定着が挙げられる。これらの課題を改善し、本校生徒が一人でも多く学力向上を実現できるように、社会科では生徒の読解力の向上を目指して実践を行った。なお、社会科において読解力とは、図・表・グラフ・地図・年表・史料などから歴史的な出来事の背景や原因、結果等を読み取ったり、予想したり、教科書本文の内容をさらに深読みしたり、現代とのつながりに気づいたりすることであると考えた。

2 目標

「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成26年一部改訂）」において、世界史Aの目標は「世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させる」ことである。そのため、今回は複数の資料から情報を読み取り、問いに対して正確にアプローチする力を養うことに重点を置く。

3 具体的方策

まず、各単元において教科書本文や資料集などの諸資料から読み取る活動を取り入れる。次に、資料などからの読み取りの活動の際、個人ワークのあとにグループワークを行う。それにより考え方や取り組み方、問いに対して正確にアプローチする方法について生徒同士で共有する機会を設ける。

4 結果

定期考査において、授業や単元の目標に関する間で、かつ文章中の空欄に、適切な文章を補充する問題を出題した際、正答者が増加した。また、資料を組み合わせることで解く問題の正答率も上昇した。以上のことから、個人ワークやグループワークに意欲的に取り組んだ生徒の多くは、目標としていた「問いに対して正確にアプローチする力」の向上に一定の成果があったと考える。

5 次年度に向けての課題

読解力の向上に向けて、その構成要素を明確にし、どこに生徒の課題があるのかをしっかりとアセスメントすることが重要であると考えます。

読解力を図るうえで、自身の考えを文章化したり、グループワークにおいて自身の意見を発言したりする表現力も必要である。特に、資料などから読み取った内容を言語化・文章化することで、グループワーク等が活発になる。また、読解力や表現力の向上を目指すうえで、基盤となる学習意欲を高めることも必要である。教科の面白さを生徒に実感させられるように、より自身の教科の専門性を高め、生徒が「考えたい」「取り組んでみたい」と思えるような問いの設定や、資料の準備をしていきたい。